

がん市民セミナー「もしもの時でも動揺しない私になるために」

清水健氏との座談会



がん診療センター設立の経緯



清水氏

がん診療センターを設立された経緯を教えてください。

中西センター長

当院では特に医師以外の看護師や薬剤師、理学療法士などがんの特化した資格、スキルを持つスタッフがたくさんいますので、そういったスタッフの患者さまへのサポートを有効に活用できるようにと設立しました。

医師のみの診療では患者さまの様々な悩みなどをカバーすることは難しいと思います。がん診療センターに相談いただければ専門知識を持った薬剤師や看護師に悩みを聞いてもらえます。

お薬の副作用で口内炎が辛い時のアドバイスや、経済的なこと保険のことなど、色々な相談ができる場所を作ろうというところから始まりました。

がん診療センターの強みとは



清水氏

先生から見た、松下記念病院のがん診療センターの強みは何ですか？

中西センター長

医師のみならず、がん治療に精通したスタッフが多職種にたくさん居て、その力をより有効に活用するために、がん診療センターがあります。

そしてそこに行けば、がん治療に精通したスタッフのアドバイスが受けられる、これが強みです。

手術支援ロボットについて

清水氏

講演の中で泌尿器の話も出ていましたが、男性の前立腺がんは多いですか？

堀内医長

そうですね、すごく増えてきています。

特に日本はアメリカなどに比べ、PSAの健診率が低いので、積極的にPSA検査を受けていただくことが非常に大事だと思います。

※PSA(前立腺特異抗原)は前立腺がんの診断における最も重要な血液中の腫瘍マーカー

清水氏

手術支援ロボット「ダヴィンチ」の話が出ていましたが、ロボット手術もすごく進化しているんですね？



堀内医長

今日は前立腺のお話しかできなかつたのですが、例えば腎臓、膀胱、副腎のがんでも実はロボット手術は保険適応になっていますので、今後当院でも手術の幅を広げていければと考えています。

清水氏

でも、ロボットにしてもらいよりも、専門医である先生に手術してもらった方が安心感があるような気がして、そのあたりいかがでしょうか？

堀内医長

ロボットが手術をするというか、ロボットを僕らが操作して手術を行うことになります。人間の手よりも精巧な動きができますし、ほとんど手ぶれもしないので、人間の手よりもロボット手術の方が正確なんですよ。

清水氏

堀内先生、髪型ファンキーですよね笑
院長、病院として大丈夫なんですか？

村田病院長

多様性の時代ですからね…OKです。
(会場から笑い)



がん予防のための運動の重要性



清水氏

2人に1人はがんというのがとても怖いのですが、がんを予防する運動ってあるんですか？

尾崎理学療法士

あまり知られていないのですが、運動することでがんを予防できると最近は言われています。また、もしがんになってしまったとしても、治療する上で運動している方が再発率も低いとも言われています。ぜひ、運動は習慣づけていただきたいなと思います。

清水氏

ということはやっぱり、買い物などでどこかへ行くにしても、すぐに車に乗って移動するとかより、歩く方がいいですか？

尾崎理学療法士

そうですね、車よりも歩いたり自転車に乗って移動する方が、少しでも身体動かす機会となりますので良いですね。

清水氏

野菜もいっぱい食べた方がいい？

尾崎理学療法士

やはり運動だけをしていれば良いというわけではなく、栄養も運動と同じでこれから意識していただければと思います。

患者さんへの配慮



清水氏

検査の結果、がんであったということを、知りたいという人もいれば、知りたくないという人もいますが、がんを本人に告知するというのは病院の義務なんではないでしょうか？

的井看護師(緩和ケア認定看護師)

松下記念病院ではご本人が聞きたいか、聞きたくないかを外来に来られた際の間診でお伺いするようにしています。やはり予後も含め、その方が本当に聞きたいのか、聞きたくないのかを都度、確認していくのが良いのではないかと考えています。

清水氏

知りたくない人はご家族の中で話し合っただけで納得されているのであれば、ご本人に言わないということもありでしょうか？

的井看護師

もちろん、がんになり治療を選択するという事になれば、「どのような治療があるか」ということをお話することになります。そのためには、がんだということを伝えないと黙って手術ができるかと言えませんが、ご本人にとって必要な治療、ケアをきちんと伝えないと、ご本人の望む治療が考えられないんじゃないかなと思います。

清水氏

的井看護師が患者さん本人やご家族に一番配慮していることはどんなことですか？

的井看護師

松下記念病院では、まずがんの告知をするときにはどなたかご家族に来ていただきたいと伝えます。がん相談支援室にはがん関連の認定看護師がいますので、大事なお話の時には認定看護師と一緒に同席させていただき、お話を進めていきます。

患者さんやご家族は先生のお話は、気を張って聞いていたとしても、その後やはり気持ちが揺れて不安になる方がいらっしゃるので、私たちは相談室の個室環境でその方の気持ちに寄り添って対応していきます。

衝撃を受けているだろうから今はお話を聴いてお気持ちを受け止めるだけにして、説明などは次回来院された際にしようかとか、急いで決めなければならない時には、病状や先生の話の理解度を確認しながら、寄り添えるようにしています。

その他、気がかりなことがあれば、当院には専門的に色々な分野のがん関連スペシャリストが多数在籍しています。

横のつながり、チームワークが良いので、すぐさま情報共有をして支援できるようにしています。



松下記念病院のがん治療への取り組み



清水氏

がん治療について、松下記念病院が果たしていく役割をどのように考えていらっしゃいますか？

村田病院長

がんの治療に関して言うと、最先端の治療がたくさん出てきています。松下記念病院は大阪府のがん診療拠点病院ではありますが、すべての治療ができるわけではありません。やはり、最先端の治療、承認されていないような治療になると、がんセンターや大学病院で受けてもらうことになります。そうではない、標準的な治療、一般的な治療ですと当院で遜色なくできます。そういったところを知っていただく。

また、がんの治療はかなり専門的な治療になります。松下記念病院では、健診から検査、診断含めて治療、そして緩和ケアまで通して診ていくことができます。これはがんセンターや大学病院とは違った当院の特徴になります。

そして、今日は当院のスタッフがたくさんお話しさせていただきましたが、治療というのは何も手術や放射線療法だけではありません。社会生活や気持ちのケアに配慮していくことも大切なことになってきます。それぞれに専門のスタッフをおいて、それぞれが自分たちの役割を果たしていく、そうして患者さんを中心として治療を進めていく。これが当院のスタイルです。

松下記念病院のそういった面を知っていただきご理解いただければと思います。